


本誌編集委員からのメッセージ (企業名五十音順)


『月刊グローバル経営』編集委員会とは

本誌のレビューを中心に編集企画の審議、立案などを行う。委員会は会員企業ならびに協力関係機関における人事・労務・国際業務・海外安全などを担当する実務家によって構成。




『月刊グローバル経営』は創刊以来、500号という節目を迎えました。編集委員の一人として、その歩みの重みをあらためて感じています。今後も読者の皆さまにとって身近で頼りがいのある存在であり続けられるよう、人材育成や安全対策への理解を深めるとともに、実務に役立つ情報や施策検討のヒントをお届けしてまいります。引き続き、本誌に温かいご期待をお寄せいただけますと幸いです。

草深 里英 (味の素㈱)




500号おめでとうございます。500号の節目に際し、本誌が半世紀にわたり日本企業の海外進出を支え続けてきた歴史の重みを実感しています。不透明な時代で手探りすることも多い現代ですが、歴史は繰り返します。よりよい出口に至る鍵は、これまでの50年の分厚い蓄積の中に必ずあります。読者の皆さまへ解決のヒントとなる切り口を示せるよう、私も編集委員の一人として伴走してまいります。

盛 将孝 (㈱資生堂)




『月刊グローバル経営』500号の発行、誠におめでとうございます。編集委員として関わる中で、分かりやすさの工夫や会員企業の声に丁寧に向き合ってくられた事務局の取り組みに、日々支えられていると感じています。会員企業の立場から、本誌が実務に役立つ知見を継続的に届けていることに大きな価値を実感しており、今後も読者に寄り添う存在であることを期待しています。

辻 教子 (NEC)




500号までの歩みは、日本企業が直面してきたさまざまな課題と、それを乗り越えながら操業エリアと共に成長してきた歴史そのものといえます。そして、本誌は常にステークホルダーと認識を共有し、学びを深め、共に成長する場としてあり続けてきました。これから先に待ち受けるどんな荒波に対しても、その一助であり続けられるよう、編集委員として微力ながら尽力してまいります。

伊東 美穂 (㈱電通コーポレートワン)




海外赴任に直結する危機・健康管理に関する本誌は、有益な指針を提示してきました。教育・文化など多様な内容にも学びの多さを感じています。海外赴任の経験と海外渉外業務、当社の海外拠点ネットワークの知見を活かし、今後も読者に寄り添う情報発信に貢献したいと考えています。

小野 晃司 (川崎重工㈱)



この度は500号の発行、おめでとうございます。編集委員として、読者として毎号楽しみに拝読しております。海外情勢の変化や駐在員の安全・医療、さらには海外・帰国子女教育など、実務に直結する知見を提供してきた本誌の情報および事務局の方々の取り組みは、会員企業の海外活動の支えになっていると思います。今後も実践的な情報提供のさらなる深化と発信を期待します。

小口 敦子 (パナソニックホールディングス㈱)



日外協から編集委員就任要請を受けて早や8年、委員の中で最古参となりましたが、私自身学び多き8年でもありました。毎月開催される編集委員会での意見交換・議論を通じて、確実に編集レベルの向上、コンテンツの拡充が図られてきたと実感しています。500号はあくまで通過点。より多くの読者に信頼される国際経営情報誌としてさらなる飛躍を祈念いたします。

井上 潔 (サントリーホールディングス㈱)

「500号を越えて」

編集長の抱負

この春、日外協・広報部では、3年ぶりに本誌の読者アンケートを実施、今回も数多くの叱咤^{しつた}激励と参考意見を頂戴した。その中で、「本誌についてご意見・ご要望など」について、自由記述いただく回答欄には、以下のコメントが寄せられた。

(一部抜粋)

- 海外人事系の情報誌は、他にあまりないので、非常に参考になる。
- 読者対象が後期高齢者向けの内容。30、40代の社員が読みたくなるような記事があると良い。
- 当部員の海外事情の把握・啓発のため、電子版も活用している。
- 出版が厳しい時代に、冊子形式で続けてくれると大変ありがたい。
- 質の高い雑誌なので、知人にも紹介している。
- 特集やコラム、ちょっとした記事コメント、映画紹介、編集後記まで有意義な記事が多く、毎号をとっても楽しみに読んでいる。
- 会社の仲間にも付箋をつけて回覧し、大切に保存している。

本誌のミッションは、日外協の日々の活動を記録に留め、広くあまねく全世界の読者にお届けすることにあると捉えている。

そうした使命を帯びた本誌は、1974年7月18日に日外協が設立されて以降、『日外協ニュース』→『在外企業』→『日外協マンスリー』→『日外協 Monthly』→『月刊グローバル経営』と誌名を変更しながら、50年以上にわたり発行され続けてきた。

その一方で、この半世紀の間に、日本経済を取り巻く状況や海外進出した日系企業の立場の変化を受けて、日外協の存在意義や役割も大きく変わってきている。日外協の活動や取り組みの記録媒体としての本誌のポジションも、時代の変化の流れを受けて自ずと変わらざるを得ない状況となっている。次号(9/10月号)からの隔月刊への移行と、それに伴うリニューアルもその一環である。

日外協の活動が続く限り、本誌もその情報を読者の皆さまにお届けするメディアとして、その重責をこれからも果たしたい。

特に、前述のアンケートの回答にも書かれているように、このデジタル社会において、電子版の発行も行いつつ、あえて紙媒体の冊子形式での発行を可能な限り、愚直に続けていきたいと思う。

多くの寄稿者の方や大勢の読者の方に支えられて、『月刊グローバル経営』は500号に到達することができた。しかしながら、これはゴールではなく、通過点と捉え、たとえ発行形態はどのように変わっても、これからも皆さまのお役に立ち、楽しんでいただける日外協の唯一無二の広報誌であり続けることを、編集長としてここに誓う。 ■



日外協 広報部長
第10代 日外協広報誌編集長 佐藤 真樹